

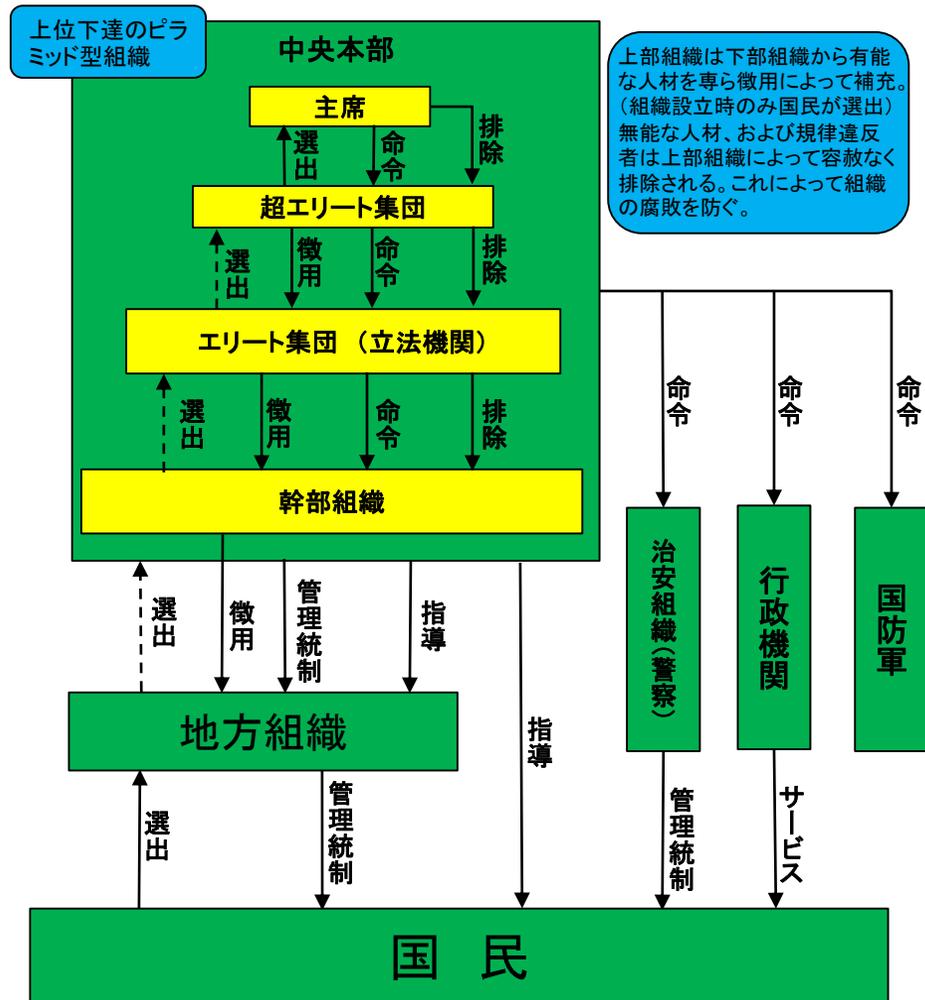
自由国家と統制国家の比較

あくまでも例(現実に存在する国家を基にしたものではない)

	自由国家	統制国家
国民の自由度	何事も自由放任	自由がほとんどない
規制する法律	厳しくない	厳しい
法律違反に対する刑罰	軽い	重い
社会の治安	悪い	良い
徴収税	安い	高い
政府の力	弱い	強い
政府への批判	自由	できない
独裁者の君臨	なし	あり
国民への福祉	不十分	充実
生活の安定度	不安定	安定
国家への奉仕	なし	強制的
経済格差	格差大	格差なし
経済システム	自由主義経済	共産主義経済
公務員の数	少ない	多い
徴兵制	なし	あり
死刑制度	なし	あり

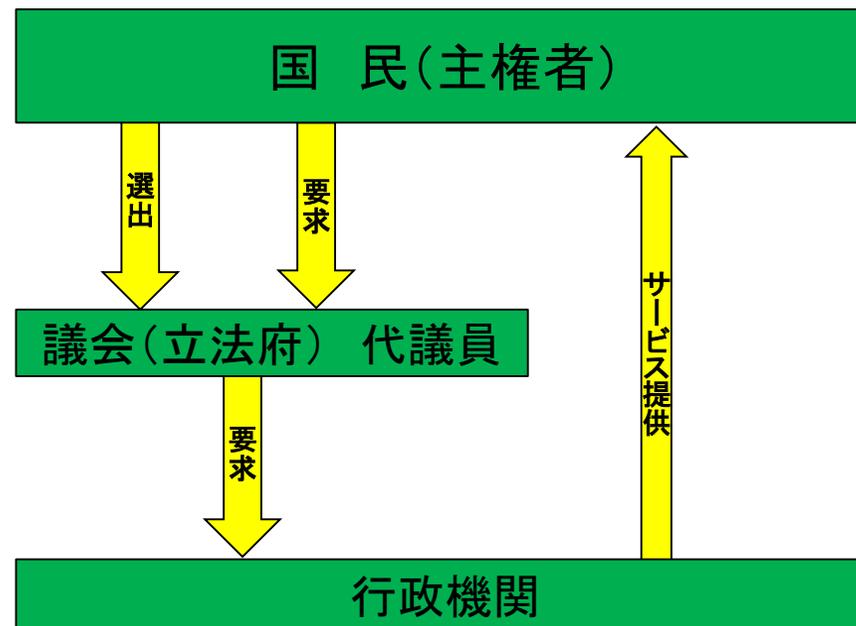
比較 国家の体制

共産主義独裁体制



中央本部は強力な権力、組織構成のもと、国民および国家全体を管理統制する。国民は本部の指導、命令に従う他はない。組織が腐敗しない限り、国民生活および国家経済は安定する。国民は体制維持を阻害しない限り、無制限の自由を保障されているが、一人の国民の意志が政治に反映されることはい。

自由民主主義体制



主権者である国民が国家の行く末を完全に決めるのであって、いかなる国権機関の長もそれを妨げることはできない。国家にリーダーなど存在せず、国家の意志はあくまで民意(全国民の統計)のみに存在する。もしも国民が無能な代議員を選出し、あるいは妥当な政治要求を怠った場合、すべては自身の生活不安に跳ね返ってくることになる。現在の生活不満の原因は、もとをたどれば自分の至らなさによるのであり、もし国家を安定させ現在の自分の生活を向上させたければ、国民は自ら賢明になり、有能な代議員の選出、妥当な政治要求の行使を行わなければならない。すべての責任は国民に帰す。いかなる為政者も国民の意志に忠実に従う。それ以外にないのである。いわば国民にとって政治は一つのシステムに過ぎない。(如何に使うかが問題)そこでもし国民が自身の手で国政を変えていくことを望まず、強いリーダーにそれを託すというのなら、自ら自由を放棄して、左の独裁体制を歓迎するしかない。